



帯状疱疹とウイルス 病気を知っていますか？

日本人では50代から発症率が高くなり、80歳までに約3人に1人がかかる病気といわれています。

带状疱疹とは？

皆さんは带状疱疹という病気をご存じでしょうか。ご存じの方は带状疱疹と聞いて、帯状にできる赤い発疹を思い浮かべることと思います。症状としては個人差がありますが、多くは、**はじめに皮膚に神経痛のような痛み**が起ります。

痛みは、皮膚の違和感やかゆみ、しびれとして感じる程度から、焼けるような痛みまでさまざまです。その後、水ぶくれを伴った赤い発疹が帯状に現れ、徐々に痛みが強くなり、眠れないほど痛むこともあります。強い痛みや皮膚の症状は、主に体の左右のどちらかにみられ、3〜4週間ほど続きます。そのため、家事や仕事などの日常生活に影響し、重症化すると入院治療が必要になることもあります。

後遺症について



带状疱疹の発症する部位によってはさまざまな後遺症が残る場合もあります。眼に出現すれば視力低下や場合によっては失明、耳にできれば難聴、運動神経を傷つけると腕が上からなくなるなどのまひを引き起こすこともあります。

带状疱疹の有名な後遺症としては、**带状疱疹後神経痛(PHN)**が挙げられます。带状疱疹後神経痛とは、**皮膚の症状が治まった後も長期間にわたって続く痛み**のことです。中には数十年にわたって痛みが続くこともあります。加齢とともに带状疱疹後神経痛への移行リスクは高くなり、50歳以上では約2割の患者が引き起こすといわれています。带状疱疹後神経痛は、ウイルスが神経を傷つけることで発症するため、带状疱疹になっただけで、できるだけ早く治療を始めてウイルスを抑えることが重要です。

——主な後遺症である带状疱疹後神経痛は、50歳以上では約2割の患者に起こるといわれています——

——初期症状で皮膚に神経痛のような痛みが起り、その後発疹や水ぶくれが帯状に現れます——

原因

带状疱疹は、主に**子どものころに患った水ぼうそう(水痘)が原因のウイルスによる疾患**です。実は、子どものころの水ぼうそうが治った後も、長年にわたって体内に潜んでいるのです。

普段は免疫力によってウイルスの活動が抑えられているため発症することはありません。しかし、病後、疲労、ストレス、加齢などによって免疫力が低下することでウイルスは再び活動しはじめ、带状疱疹の発症に至ります。

日本人では、50代から带状疱疹の

治療について

带状疱疹の発疹や水ぶくれなどは治療を行わなくても治る場合もありますが、治療が遅くなったり治療しないまま放置すると、高熱などの全身症状や、前述でも紹介したように後遺症が残る場合もあります。

带状疱疹の治療の中心は、水痘・带状疱疹ウイルスの増殖を抑える「抗ウイルス薬」と、痛みを和らげる「鎮痛薬」が使われます。皮膚の症状によっては「ぬり薬」が処方されることもあります。

抗ウイルス薬は発疹が出てから72時間以内に飲みはじめることが望ましいとされています。しかし、発疹してからすぐに医療機関を受診する患者さんが少ないのが現状です。抗ウイルス薬を飲むことで体内のウイルスの数が減少すれば、症状は次第に軽減します。「じっとしていても痛い」。原因の分からない痛みが体の片側に起り、そこに発疹がみられたら、できるだけ早く医師に相談しましょう。

——治療が遅れたり放置すると後遺症が残る場合があるので、带状疱疹が疑われたらできるだけ早く医師に相談しましょう——

発症率が高くなります。50代、60代、70代と発症率は増加し、80歳までに**約3人に1人**が带状疱疹になるといわれています。また、带状疱疹患者のうち約7割が50歳以上といわれています。

しかし、20〜30代の若い方でも可能性がないわけではありません。実は、**日本の成人のおよそ9割が带状疱疹の原因となるウイルスを持っている**といわれています。子どものころに水ぼうそうにかかったことがある人だけでなく、かかっていても自覚症状がない人もいるので、「水ぼうそうを患ったことがない」ウイルスは持っているという人には決してならないのです。

——主に体内の水ぼうそう(水痘)・带状疱疹ウイルスが活動を再開することで発症します——

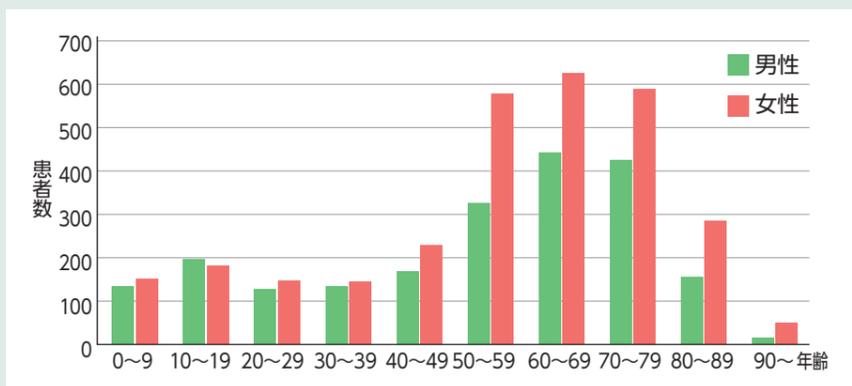
予防について

带状疱疹は、**ワクチン**で予防できます。ワクチンを接種することで、そのワクチンの成分(細菌やウイルス)に対しての免疫力を高め、病気の発症や重症化を抑えることができます。

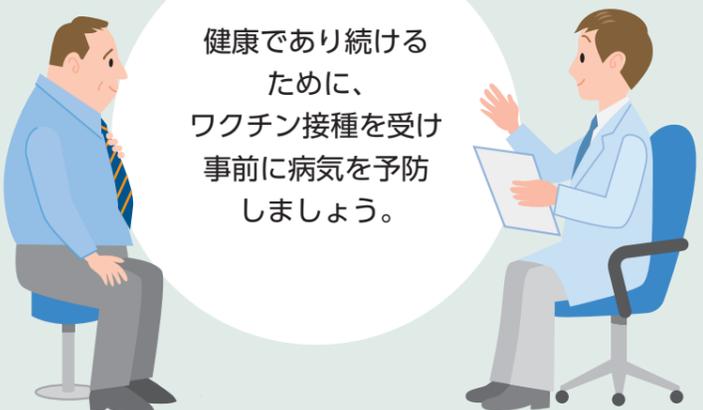
带状疱疹の予防には、50歳以上の方を対象としたワクチンがあります。水ぼうそうにかかったことがある人は、すでに带状疱疹ウイルスに対する免疫を獲得しています。しかし、年齢とともに弱まってしまうため、改めてワクチン接種を行い、免疫を強化することで带状疱疹を予防します。予防接種は带状疱疹を完全に防ぐものではありませんが、たとえ発症しても症状が軽く済むという報告があります。

60歳以上の高齢者を対象に米国で行われた臨床研究では、ワクチン接種によって発症率が半分になり、带状疱疹後神経痛が3分の1になったことが示され、带状疱疹がワクチンで予防可能な病気であることが明らかになりました。また、2020年1月には予防効果を約90%まで高め、免疫抑制患者にも使用できる新薬も発売されるなど、带状疱疹についての研究は日々進んでいます。

宮崎県の带状疱疹患者数 (1997～2011年の平均)



※外山望, 白木公康. 宮崎県の带状疱疹の疫学 (宮崎スタディ). IASR2013;34:298-300. より引用



健康であり続けるために、
ワクチン接種を受け
事前に病気を予防
しましょう。

問い合わせ先 医療介護課健康増進係 ☎72-03333